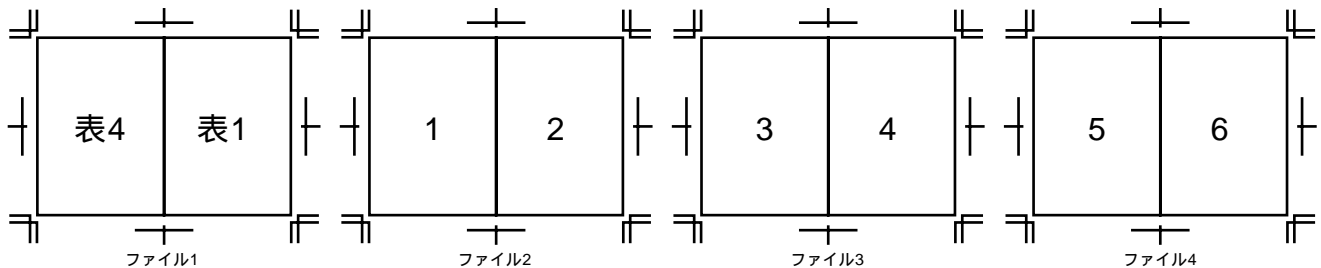


"Q8ill ver.2" user manual

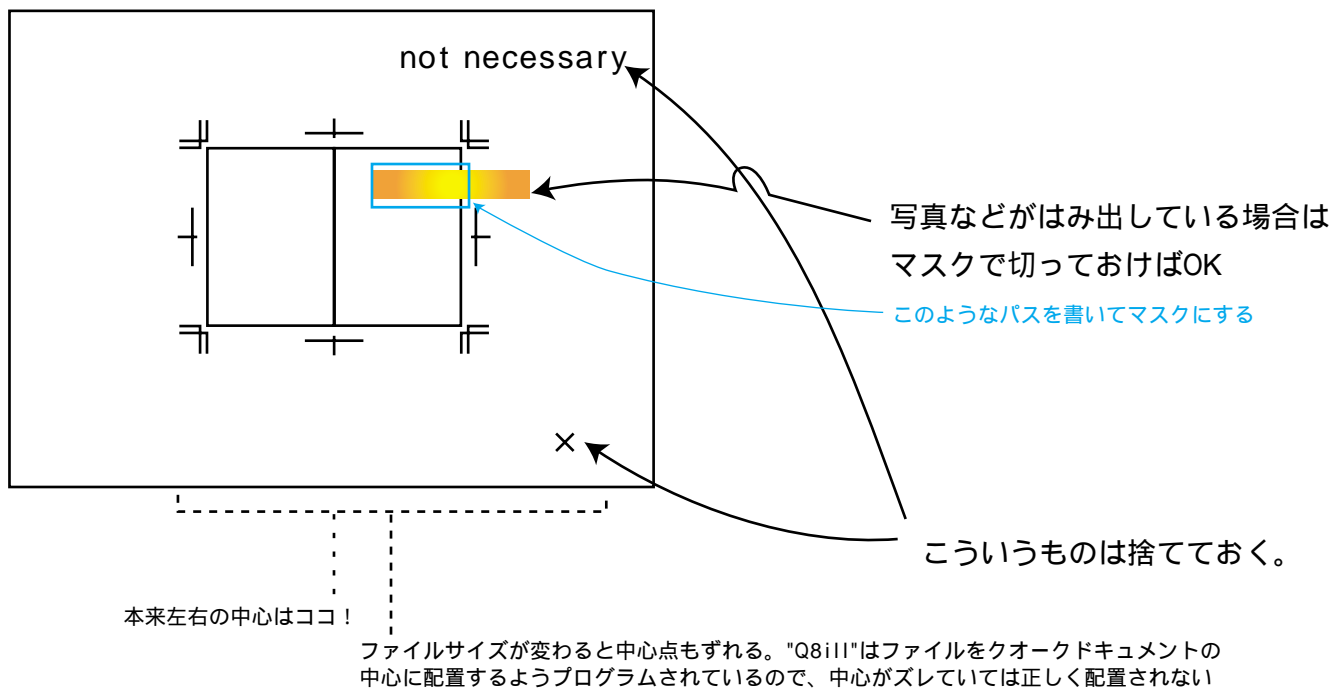
動作確認は次の環境で行いました：MacOS9.04 , QuickTime4.1 , QuarkXPress3.32j , illustrator

Q8illはイラストレータで作成されたEPSファイルを順にクオークエクスプレス3.3Jに貼り込んでゆく為のソフトウェア - です。ステノンブルが自動で付き、面付け出力の為に最適なファイルを作ります。

まずはありがちな例をとりあげて、シミュレートしてみましょう。A4 x 8 ページのデータを面付け出力するという状況です。データはイラストレータで出来ており、面付けソフトウェアを使うにはQuark X Pressに貼り込まねばなりません。また、印刷の現場においてはトンボの外に「捨てノンブル」を付けねばならないことがよくあります。では"Q8ill"を使う前にイラストレータファイルを確認して下さい。



上のようなページ順に並んだ見開きファイル (x 4) になっていたらOK です。もう一つの条件は各ファイルのトンボの外に不要なオブジェクトが残っていないこと。残っているとファイルサイズが変わりQx 上での位置合わせが上手く出来ません。(下図参照)



参考

"Q8ill"を使ってクオークエクスプレスに適正に貼り込むことができるファイルの必要条件は

1. EPSファイルであること
2. EPSファイルサイズの中心点と仕上がりサイズの中心点が一致していること

この2項目を満たしていればクオークドキュメントの正しい位置に貼り込まれますが、開発時の動作確認にはイラストレータで作成したEPSファイルのみを使用しました。又、イラストレータの場合仕上がりサイズのパスを使ってトリムマークを作成しておく、上下左右均等なファイルサイズを確保しやすいと思います。

それではいよいよ『Q8ill』をWクリックでたちあげます。最初にサイズを聞かれるので、この場合は「210」「297」を打ち込んで下さい。次にファイルの数を聞かれるので、Illustrator のファイル数「4」を打ち込んで下さい。右開きか左開きかを選ぶダイアログでは、この場合「左開き」にします。次にステノンブルを付けるかどうかです。「つける」を選択してみてください。ノンブルをつける場合は頭から数えて何ページ目にp.1 がくるのかを入力します。この場合、「表4」「表1」「p.1」「p.2」「p.3」「p.4」「p.5」「p.6」と並んでいるので、「3」と入力します。するとQuark のドキュメントが作成され、「ファイルを順番にえらんでね」と出るので、イラストレータ・ファイルの「ファイル1」「ファイル2」「ファイル3」「ファイル4」の順番に入れてゆきます。

「できたよ」というダイアログがでたら出来上がりです。

「ノンブルについて」

ステノンブルをつける を選択すると左開きの場合はページの下に、右開きの場合はページの上に3mm のヌリタシ分を確保して作成されます。box の地色は「なし」、回り込みの設定も「なし」、フレームは「0 pt」で、文字色は「レジストレーション」になります。フォントは特に指定してありません。

番号の振り方はページ1 をQx の何ページ目に設定するかによります。

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 1 ページ目と設定すれば | 1、2、3、... |
| 2 ページ目と設定すれば | c4、1、2、3、... |
| 3 ページ目と設定すれば | c4、c1、1、2、3、... |
| 4 ページ目と設定すれば | c4、c1、c2、1、2、3、...というノンブルが付きま |

選択肢はこの4 つです。5 ページ以降を設定すると続行することはできますが、正しくノンブルが付きません。(マイナスのページが入ってしまいます)

「右開き」「左開き」について

ここで一つ制限事項を上げておきます。Quark で新規ドキュメントを作ってみて下さい。そのとき「デフォルトの組み方」が「横組み」になっていませんか。それなら問題はありません。もし「縦組み」になっていたら「横組み」でドキュメントを作ってみて下さい。次から新規作成したときに「横組み」になるはずですが、このアプリケーションでは「右開き」(縦組みと同意)の場合も一旦「横組み」で作成するところから始まるので、デフォルトで「縦組み」になっている場合は上手く動作しませんが、Apple Script でこのパラメータを変更することが出来ませんでした。必ず「横組み」にしておいて下さい。

では"Q8ill"で「右開き」を選択した場合どのように縦組みドキュメントを作成するかを説明します。一旦アプリケーションは「横組み」のドキュメントを仮作成します。仮作成後、メッセージが出てアプリケーションが自動終了した後、そのドキュメントの「ドキュメント設定」を開き「縦組み」に変更して保存して下さい。そのパラメータの変更だけはユーザーに行ってもらいます。その際ドキュメント設定以外の変更をしないよう御注意下さい。次にそのドキュメント・ファイルを"Q8ill"のアイコンにドラッグ&ドロップして下さい。自動的にドキュメントを開き、貼り込まれたオブジェクトを正しい位置に移動して完成させます。

(ポイント)"Q8ill"のドロップレットとしての用方は右開きドキュメント作成の時だけ!

御不明の点は下記までお気軽にお尋ね下さい。またアプリケーションのバグ、マニュアルの不備等ございましたらお教え下さい。

mail : info@impress-inc.co.jp url : http://www.impress-inc.co.jp